

1 米国における牛肉市場概観・流通実態¹

1.1 市場概観

1.1.1 米国食肉市場全体を占める牛肉消費量の推移

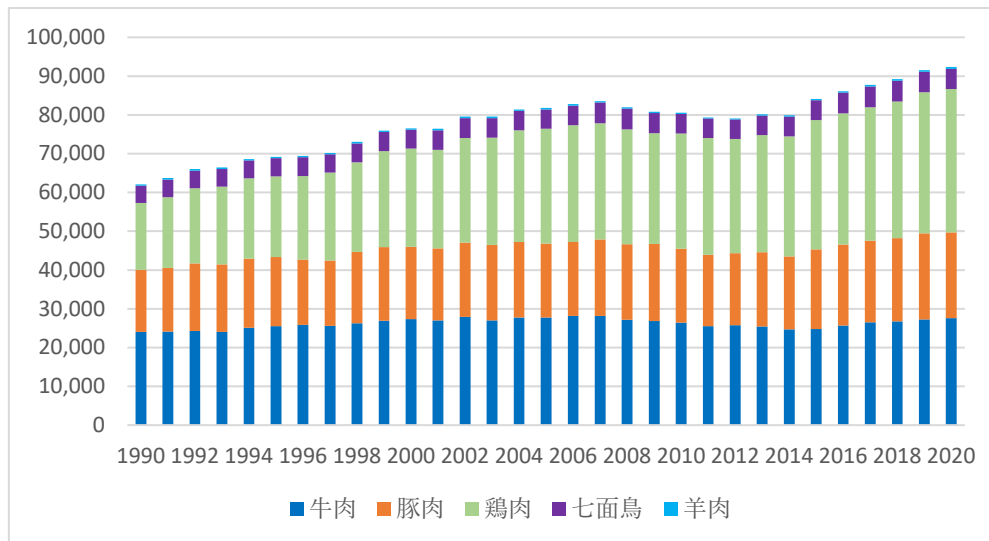
米国では過去40年、断続的な人口増加・経済成長、肉を好んで食べる嗜好性などを背景として、食肉の消費量が増加してきた。主な食肉の種類には、牛肉、豚肉、鶏肉、七面鳥、羊肉が挙げられ、このうち特に牛肉は消費量が最も多い肉食として長年君臨してきた。しかし2000年代前半に、安価な値段、食文化の多様性、健康志向などを背景として、鶏肉の消費量が初めて牛肉消費量を上回った。鶏肉は、プロイラーによる大量生産に伴い生産コストの低下に成功したことで安価な値段での提供が可能となった。また、女性の社会進出により家庭で調理に手間がかからない鶏肉を米消費者がより好むようになったほか、健康志向の高まりを受けて脂肪が多い牛肉から脂肪が少ない鶏肉を選択するようになった。2008年のリーマンショック後の景気回復に伴い2015年以降牛肉消費量が回復してきたものの2008年から2014年までの間、高額な価格帯である牛肉消費量は一貫して減少した。2020年時点における米国の牛肉消費量は275億6,100万ポンド（約1,250万トン）に上る。

また米国内の食肉生産量も、消費量とともに推移している。歴史的にこれまで牛肉生産量が多かったものの、1990年後半に初めて鶏肉生産量が牛肉生産量を上回ったほか、2020年には豚肉生産量が牛肉生産量を遂に上回るなど、牛肉生産量が他の種類の食肉と比べて低下しつつある。2020年時点における主要な食肉生産量は、鶏肉が446億5,500万ポンドと最も多く、次いで豚肉が283億1,800万ポンド。牛肉が272億4,400万ポンドとなっている²。このように米国市場において牛肉の消費量・生産量は伸びが鈍化している。

¹ 本報告書では、日本から輸入される和牛の肉を「和牛肉」、米国や豪州等で生産される日本の和牛由来とされる肉用牛若しくはその牛肉を「wagyu」として区別、定義づける。

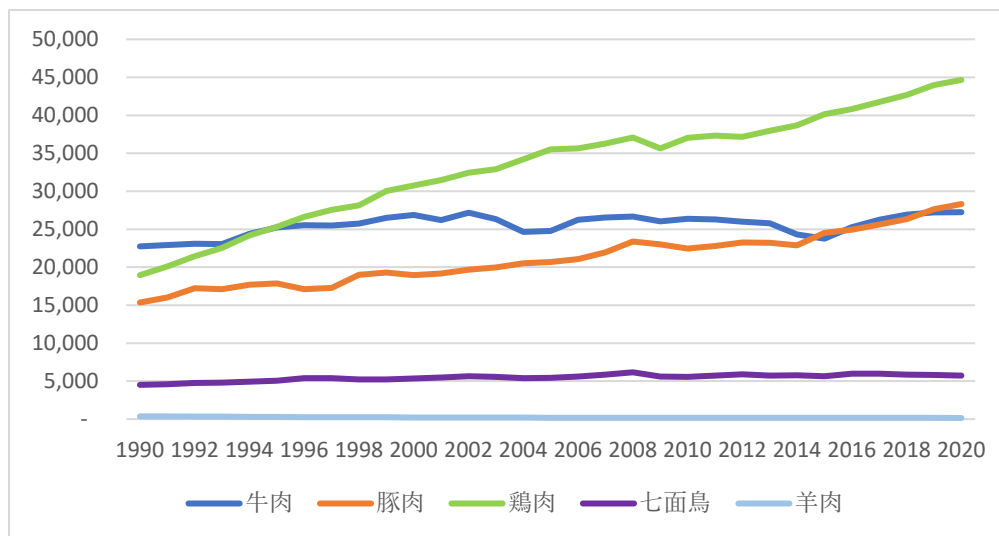
² USDA, “Livestock and Meat Domestic Data: All supply and disappearance,” January 26, 2022. <https://www.ers.usda.gov/data-products/livestock-and-meat-domestic-data/livestock-and-meat-domestic-data/#All%20meat%20statistics>

図表1：米国における種類別食肉消費量の推移（単位：100万ポンド）



出所: USDA (U.S. Department of Agriculture) を基にワシントンコア作成³

図表2：米国における種類別食肉生産量の推移（単位：100万ポンド）



出所: USDA を基にワシントンコア作成⁴

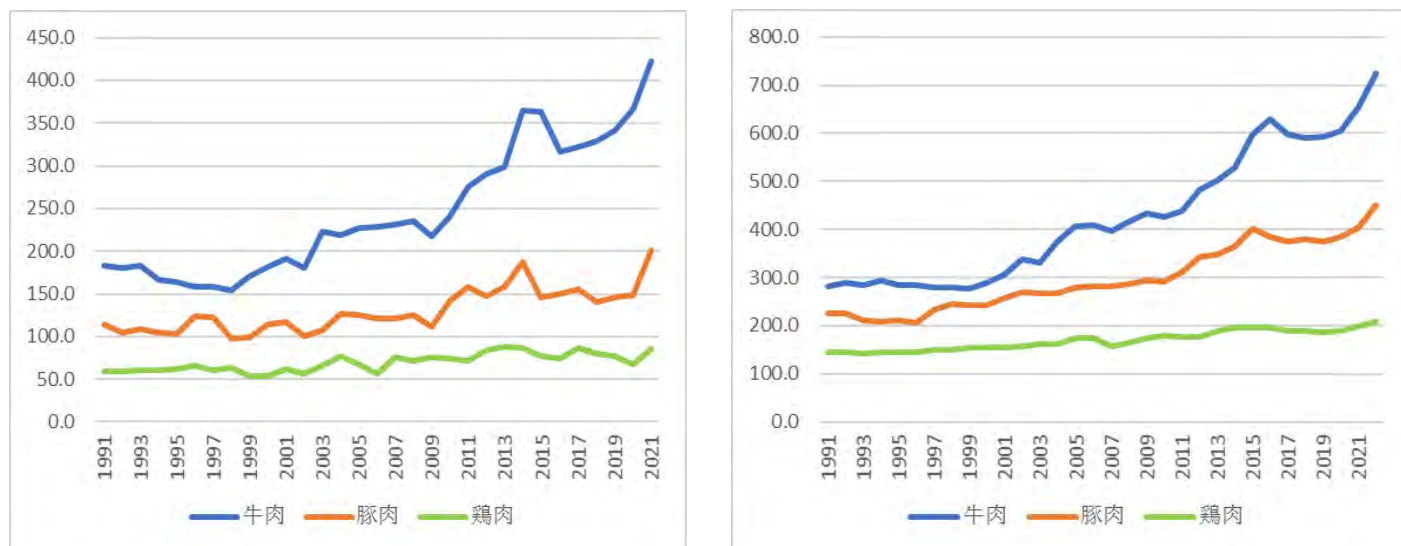
³ USDA, "Livestock and Meat Domestic Data: All supply and disappearance," January 26, 2022. <https://www.ers.usda.gov/data-products/livestock-and-meat-domestic-data/livestock-and-meat-domestic-data/#All%20meat%20statistics>

⁴ USDA, "Livestock and Meat Domestic Data: All supply and disappearance," January 26, 2022. <https://www.ers.usda.gov/data-products/livestock-and-meat-domestic-data/livestock-and-meat-domestic-data/#All%20meat%20statistics>

1.1.2 米国食肉の卸売・小売価格の推移

牛肉、豚肉、鶏肉の卸売価格を比較した場合（1ポンド当たり）、1990年は牛肉と鶏肉の価格差は3倍程度であった。その後、鶏肉の卸売価格は一定水準を維持してきたものの、牛肉の卸売価格は大幅に増加し、2020年にはその差が約6倍に達した。これを反映して小売価格も同様の傾向にあり、牛肉と鶏肉の双方の価格の乖離が益々進みつつある。特に2006年頃以降、牛肉の卸売価格が大幅に増加した背景には、トウモロコシなどの飼料費、資材費、エネルギーコストなどの肉用牛の生産コストの上昇や牛肉需要に対する供給がひっ迫傾向にあることが挙げられる。2000年代後半以降、米中西部の干ばつの影響を受けた牧草の生育状況の悪化や穀物価格の高騰から国内の牛飼養頭数が減少し、2014年には1952年以降初めて最低水準となった。これに伴い2015年の牛肉生産量は過去20年間で最も少なくなり、供給量の減少が卸売価格の上昇を招いたのである。さらに外国為替市場における米ドルの価値低下（ドル安水準）も、海外肉用牛や牛肉からの輸入コストの値上げも挙げられる。このように牛肉の販売価格は過去40年増加傾向にあり、手頃な価格で一般的に楽しめるという従来のイメージから、豚肉や鶏肉とは比較して購入価格が高額な食材になりつつある。

図表3：米国における種別食肉の卸価格（左図）、小売価格（右図）の推移
（単位：セント／1ポンド当たり）



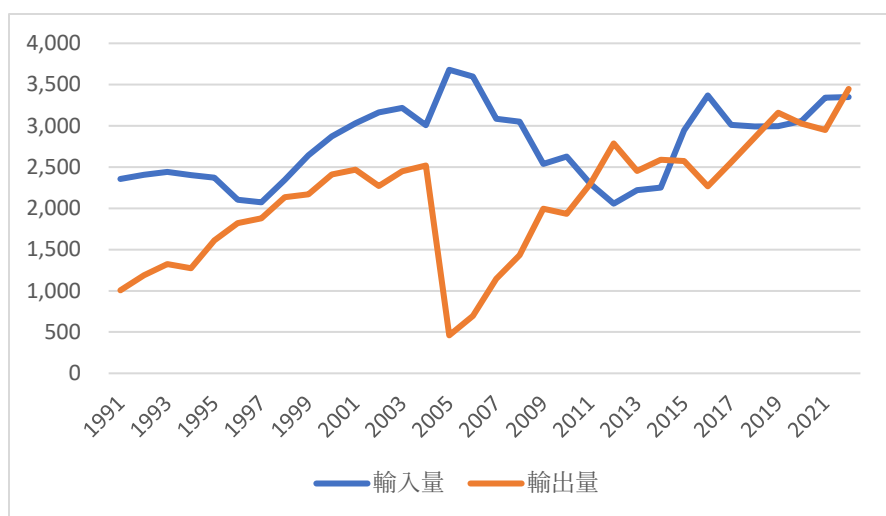
出所: USDA を基にワシントンコア作成⁵

1.1.3 米国牛肉輸出入量

⁵ USDA, "Livestock and Meat Domestic Data: All supply and disappearance," January 26, 2022. <https://www.ers.usda.gov/data-products/livestock-and-meat-domestic-data/livestock-and-meat-domestic-data/#All%20meat%20statistics>

米国は世界の牛肉市場において、生産量、消費量は世界第 1 位、輸入量は中国に続き第 2 位、輸出量は、ブラジルに続き第 2 位の規模を誇る牛肉大国である（いずれも 2021 年 10 月時点）⁶。牛肉輸出量は、2003 年の米国内における牛海綿状脳症（BSE）の発生の影響を受け、2004 年に大幅に減少したものの、それ以外は過去 40 年間に於いて増加傾向にある。2003 年 5 月にカナダで初めて BSE を検出、さらに同年 12 月にはワシントン州にてカナダ生まれのホルスタイン種の BSE への感染が確認されたことを受け、各国において米国産牛肉の輸入が制限された。そのため、2004 年及び 2005 年の輸出量が大幅に減少したが、2006 年以降の各国の輸入制限緩和に伴い、米国産牛肉輸出量が回復した。

図表 4：過去 40 年間に於ける米国牛肉輸出入量の推移（単位：100 万ポンド）



出所: USDA を基にワシントンコア作成⁷

一方、米国による牛肉輸入量は、2004 年 BSE 問題による米国内の生産量の減少の影響で一時的に大幅に増えたが、その後は増減を繰り返している。過去 5 年間の傾向として、2016 年以降は横ばいで推移していたものの、2020 年にはコロナ禍の巣ごもり需要もあり、牛肉輸入量が上昇。2021 年の米国による牛肉輸入量は 33 億 4,751.6 万ポンドに達した。主な輸入元は、カナダ、メキシコ、ニュージーランド、オーストラリア、ブラジルである。また、日本からの輸入量は 359.5 万ポンドと第 14 位である。和牛肉の輸入量は過去堅調に増加してきたものの、2019 年には前年比で微減、2020 年に大幅低下した。しかし 2021 年における輸入量は 359.5 万ポンドへ回復、前年と比べて倍増したほか、2018 年の輸入量を超えた。その理由として、2020 年 1 月以降の日米貿易協定の発効により低関税枠が拡大したこと（当初 200 トンから複数国との共同枠 6 万 5,005 トンへ拡大）、ポス

⁶ USDA/FAS, “Livestock and Poultry: World Markets and Trade,” January 12, 2022
https://apps.fas.usda.gov/psdonline/circulars/livestock_poultry.pdf

⁷ USDA, “Livestock and Meat Domestic Data: All supply and disappearance,” January 26, 2022.
<https://www.ers.usda.gov/data-products/livestock-and-meat-domestic-data/livestock-and-meat-domestic-data/#All%20meat%20statistics>

トコロナの巣ごもり需要が継続したことで高品質である和牛肉のニーズが拡大したことが挙げられる。

図表 5：過去 5 年間における輸入元別の米国牛肉輸入量推移（単位：1,000 ポンド）

輸出国／年	2017	2018	2019	2020	2021
カナダ	741,246	791,757	847,796	825,381	942,284
メキシコ	573,541	508,185	579,958	651,324	674,757
ニュージーランド	556,965	572,536	400,991	515,605	503,061
オーストラリア	694,929	673,009	716,619	662,909	413,277
ブラジル	137,639	141,017	163,269	221,047	369,334
ニカラグア	133,338	156,781	182,727	189,351	193,358
ウルグアイ	120,476	114,510	118,873	147,205	133,864
アルゼンチン	-	103	4,922	62,325	62,671
コスタリカ	24,268	23,652	23,018	28,855	22,823
アイルランド	4,350	3,751	9,496	25,783	18,683
オランダ	2,274	3,364	3,337	3,482	5,292
日本	1,069	3,061	2,690	1,591	3,595
・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・
合計	2,992,981	2,997,940	3,057,794	3,341,609	3,347,516

出所：USDA のデータ⁸を基にワシントンコア作成

1.1.4 米国産牛肉の主な品種


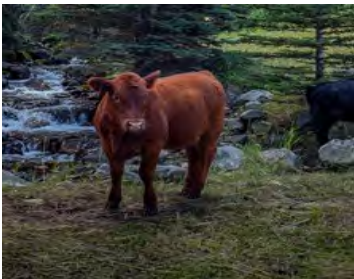

米国では様々な品種の肉用牛が繁殖、飼育、流通されている。USDA の Economic Research Service へのヒアリングによると、USDA の公式データでは、肉用牛のすべての品種と品種毎の牛飼養育頭数は特定していないことから、その全貌は不明であるという。また元 USDA 上席高官の話によると、米国牛肉市場に流通している肉用牛は、一部を除いてフルブラッドの肉用牛ではなく、大部分は他の品種と交配した交雑種（クロスブレッド）であるという。このような状況から、フルブラッドの品種を生産、流通する一部の事業者を除いて、各種牛肉毎の流通経路や流通量、仕向け先は誰も追跡、特定しておらず、把握できないという。と畜場・食肉加工施設にて牛がと畜される場合、牛の形状（見た目）でおおよその品種が推測されるものの、特に品種にはこだわっておらず、同施設では枝肉の品質のみが重視されているという。USDA は、義務付けられた安全検査と、と畜される牛肉の柔らかさや旨味（肉質等級）、一頭当たりから牛肉が取れる量（歩留等級）を評価する任意の牛肉格付制度を有している（詳細は後述参照）。牛肉格付制度に基づき肉質等級を評価す

⁸ USDA, “Annual and cumulative year-to-date U.S. trade (carcass weight, 1,000 pounds)”
https://www.ers.usda.gov/webdocs/DataFiles/81475/BeefVeal_YearlyFull.xlsx?v=3701.1

る場合、牛の成熟度を判断するために月齢を目安としている。一方安全検査では、BSE 対策としてと畜される牛の歯から月齢を推測することも可能であるが、USDA は牛の正確な月齢や性別を確認しておらず、そのような情報は記録されていない。USDA 検査員がこれらについて尋ねることもないという。また、牛の月齢や性別を確認するには追加コストがかかるため、追加コストを支払ってまでその確認を行うことは一般的に事業者はやりたがらないとしている。

米国内に流通する肉用牛の品種の詳細なデータはないが、現時点で世界全体で 250 種以上の品種があり、米国にはそのうち約 60%（150 種程度）が存在するとされている。これらのうちアンガス種、ヘレフォード種、ピエモンテ種、ブラーマン種、ショートホーン種などが主要な品種として挙げられる⁹。これらの品種の特徴は以下のとおりである。

図表 6：米国飼育牛の主な品種とその概要

品種名	概要
アンガス種	 <p>アンガス牛の正式名称はアバディーン・アンガス（Aberdeen Angus）。イギリス・スコットランド東部にあるアバディーンシャー、アンガスの 2 つのエリアが原産地と言われている。在来牛を改良した小型の肉牛として誕生し、米国を中心に世界で広範囲に生息している。肉質は柔らかでジューシー、この牛が出回ったことで牛肉料理が煮込み主体からステーキのような火で焼く料理に変わったと言われている。</p>
ヘレフォード種	 <p>アメリカ西部劇でカウボーイとともに登場する、体は茶色、頭部は白色の毛に覆われた品種。原産地はイギリスで、過酷な環境にも耐えられることから多くの地域で飼育されており、世界三大肉用牛の一つに挙げられている。</p>
ピエモンテ種	 <p>ピエモンテ種は、100 年以上前にイタリア北西部のピエモンテ地域で生まれたものの、1970 年代からは北米で飼育されている。ピエモンテ牛は非常に重い筋肉組織とユニークな遺伝子で構成されているため、従来の牛と比べて豊富な筋肉を自然に発達させることができる。</p>

⁹ American Care Practice, “What Are Some Famous Beef Cattle Breeds? All You Need To Know,” January 18, 2022

<https://animalcare.folio3.com/beef-cattle-breeds/>

ブラーマン種		アジアを原産地としながら、米国南部の亜熱帯地域で飼育できるように改良された品種。暑くて乾燥した環境でも生き抜くことができる。背中にある大きなコブが特徴。
ショートホーン種		上質の肉牛として高く評価されており、乳牛としても使用される品種である。アンガス種と同じく、イギリスのスコットランドが原産地。この品種は明治時代に日本に輸入され、和牛の祖先になったと言われている。ショートホーン種も牛肉の世界三大品種の一つとして知られている。

出所：USDA、UK Agriculture などの各種情報¹⁰に基づきワシントンコア作成

USDA は、品種別の登録数や市場占有率などの情報を公開していないものの、一部の統計では米国市場に流通している肉用牛の最大 6～7 割がアンガス種で占められている¹¹。

また、業界団体 National Pedigreed Livestock Council は、米国全体の飼養頭数の僅か 3%未満の集計であり網羅的ではないものの、各種業界団体に登録されたアンガス種やヘレフォード種といった主要な品種の飼養頭数を集計している。合計 70 万頭のうちアンガス種は 327,067 頭と全体の 5 割程度と最も多い。次いで、ヘレフォード種、レッドアンガス種、シメンタル種が続く。

¹⁰ Pink Gorilla Events, “Why Certified Piedmontese Beef Costs More,” October 14, 2020

<https://www.pinkgorillaevents.com/why-certified-piedmontese-beef-costs-more/>

Catherine MacGregor, Beef Shorthorn, “The Beef Shorthorn”

<https://www.beefshorthorn.org/breed-gallery/>

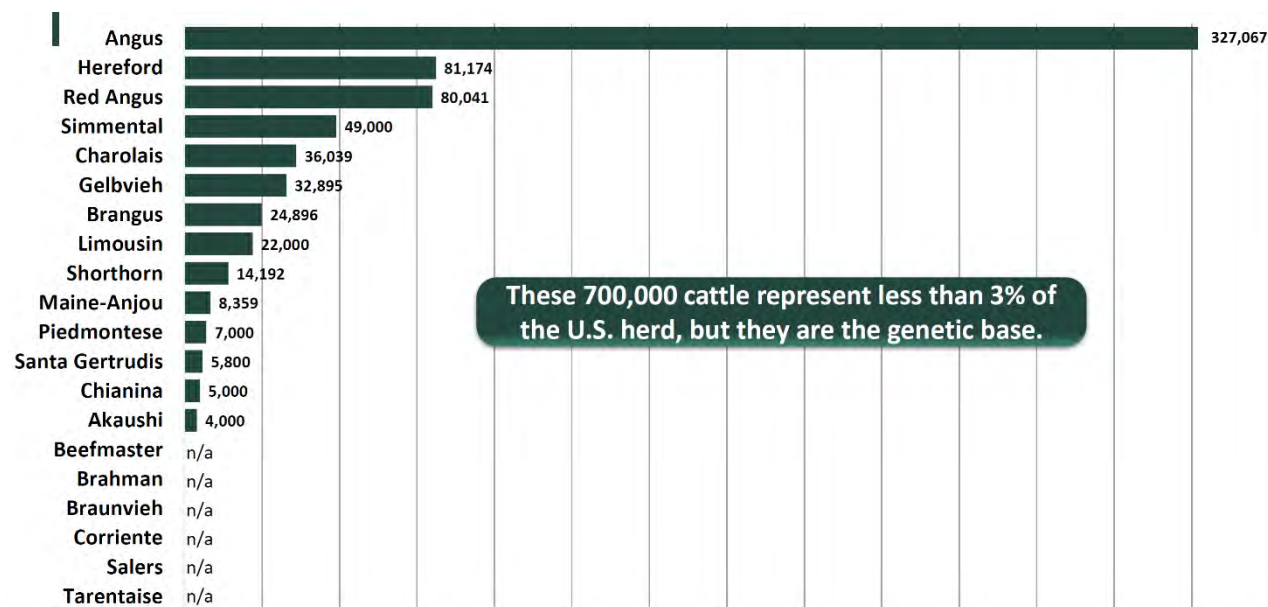
¹¹ Brooksranchland, “5 Best Cattle Breeds to Raise in Wyoming”

<https://www.brooksranchland.com/news/5-best-cattle-breeds-raise-wyoming>

AngusMedia, “Time for Prime,” May 22, 2017

<https://www.angus.org/media/news/fullarticle?aiid=825&astitle=time-for-prime>

図表7：品種登録別飼育牛数の内訳（2019年時点）

出所：National Pedigreed Livestock Council¹²

米国では2022年1月時点で、牛飼養頭数（乳牛を含む）は9,190万頭であり、このうち肉用経産牛は約3,010万頭と全体の約3割を占める。また、繁殖供用予定である肉用未經産牛は約561万頭、と畜場出荷前に肥育されるフィードロット内の肥育牛は約1,469万頭である。肉用経産牛の州分布はテキサス州を筆頭に、オクラホマ州、ミズーリ州などの中西部に比較的集中している。一方、肥育牛も、肉用経産牛の分布に沿って、テキサス州、ネブラスカ州、カンザス州などで多く飼養されている。肉用経産牛は中西部に多いとはいえ比較的全土に分布しているものの、肥育牛は、ネブラスカ州、テキサス州、カンザス州などの上位5州で全米の約7割を占めている。これらの地域で肥育牛が多い理由のひとつとして、肥育牛の主な飼料であるトウモロコシの産地であり、比較的安価で飼料の調達が可能となることが挙げられる。

図表8：肉用経産牛および肉用肥育牛の飼養頭数上位5州（2022年1月時点）

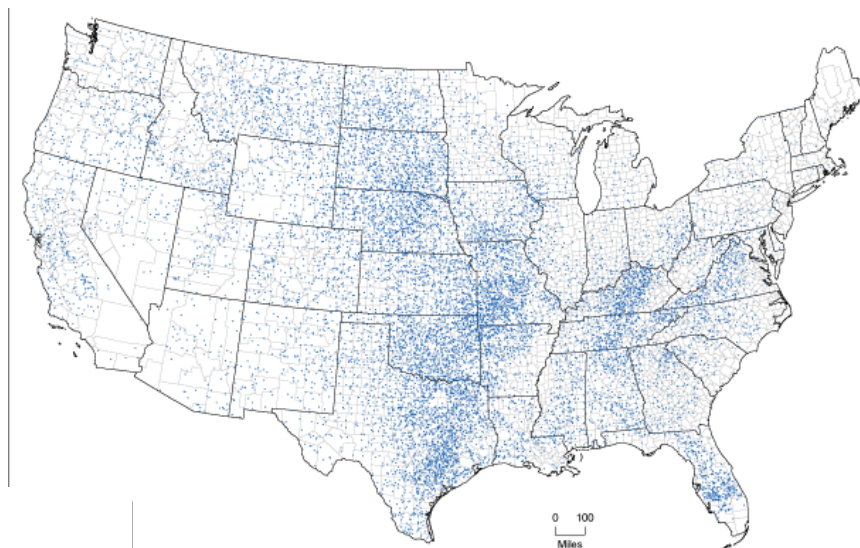
	肉用経産牛			肉用肥育牛		
	州	頭数 (千頭)	割合 (%)	州	頭数 (千頭)	割合 (%)
1位	テキサス州	4,475.0	14.9	テキサス州	2,930.0	19.9
2位	オクラホマ州	2,131.0	7.0	ネブラスカ州	2,820.0	19.2
3位	ミズーリ州	1,941.0	6.4	カンザス州	2,610.0	17.8
4位	ネブラスカ州	1,832.0	6.1	アイオワ州	1,170.0	8.0
5位	サウスダコタ州	1,610.0	5.3	コロラド州	1,160.0	7.9
	合計	30,125.1	100	合計	14,692.6	100

¹² ヒアリングを実施したミシガン州立大学から入手

※割合は四捨五入で計算

出所：USDA のデータ¹³を基にワシントンコア作成

図表 9：肉用経産牛の全米分布図（2017年時点¹⁴）



※青点1つにつき肉用経産牛2500頭

出所：USDA のデータ¹⁵を基にワシントンコア作成

一方、米国の主要品種であるアンガス種に関する全米の飼養頭数は公開されていないものの、米国最大のアンガス種の団体である米国アンガス協会（American Angus Association、以下、AAA）にブランド登録されたアンガス種の飼養頭数は、全米で313,138頭である。このうち上位5州は、モンタナ州、ネブラスカ州、テキサス州、サウスダコタ州、ミズーリ州である（2021年末時点）¹⁶。モンタナ州を除いた4州は前述の肉用経産牛の飼養分布と一致している。また、米国のwagyu業界団体である米国wagyu協会（American Wagyu Association、以下、AWA）によると、米国産wagyu飼養頭数は全米で約3万頭であり、全米各地で米国産wagyuが飼養されているが、特にテキサス州、アイオワ州、オレゴン州、ニューメキシコ州、アラバマ州に集中していると推測される¹⁷。

¹³ USDA, “Cattle Inventory by Class and Calf Corp—United States: January 1, 2021 and 2022”
<https://downloads.usda.library.cornell.edu/usda-esmis/files/h702q636h/pn89f870n/jw828f69f/catl0122.pdf>

¹⁴ 以下のマップは、USDAが5年毎に発行している農業センサス（Census of Agriculture）に基づき作成されており、2017年時点が最新データとなる。

¹⁵ USDA/NASS, “Census of Agriculture, 2017 Census Ag Atlas Map”
https://www.nass.usda.gov/Publications/AgCensus/2017/Online_Resources/Ag_Atlas_Maps/17-M210g.php

¹⁶ American Angus Association, “2021 Annual Report”
https://www.angusjournal.com/salebooks/Annual_Report_2021/

¹⁷ Triple T Ranch, “The History of Wagyu in America: How American Wagyu Came to Be,” March 31, 2021
<https://thetripletranch.com/blog/the-history-of-wagyu-in-america-how-american-wagyu-came-to-be/>